事　　項	キク半身萎凋病に対する８月咲き小ぎく品種の発病程度と病徴
ねらい	小ぎく品種の半身萎凋病に対する発病程度はこれまで明らかでなかった。そこで、キク半身萎凋病菌２菌株を用いて接種試験を行ったところ、小ぎく品種の発病程度と病徴が明らかになったので防除指導上の参考に供する。
指導参考内容	1　小ぎく品種の半身萎凋病菌に対する発病程度 (1) 品種「よいこ」、「ななみ」、「まつかぜ」及び「ほたる」は、中位葉まで黄化、萎凋が進展し、発病程度が高いと考えられた。 (2) 品種「むさし」は半身萎凋病菌の菌株により中位葉まで発病する場合があった。 (3) 品種「いそべ」、「えりか」及び「かおり」は発病が下位葉にとどまり発病程度は低いと考えられた。 2　小ぎく品種における発病の特徴 (1) 品種「ほたる」では下位葉よりむしろ中位葉が黄化、枯死した。また、葉脈間が退色、黄化した。 (2) 品種「かおり」では下位葉が淡紅色～赤色に着色する場合があった。 (3) 一般に無接種と比較して草丈は抑制され、葉色は淡くなった。 (4) 一般に半身萎凋病の特徴とされる茎の導管褐変はいずれの品種も不明瞭で診断の基準にはならなかった。
期待される効果	小ぎく栽培におけるキク半身萎凋病防除指導上の参考となる。
利用上の注意事項	キク半身萎凋病菌は病原性の菌株間差が大きい。そのため、発病の少なかった品種でも場所によっては強く発病する可能性がある。
担　　当	フラワーセンター21あおもり　生産技術部　　対象地域　県下全域
発表文献等	平成14年度　フラワーセンター21あおもり試験成績概要集 平成14年度　日本植物病理学会東北部会発表

【根拠となった主要な試験結果】

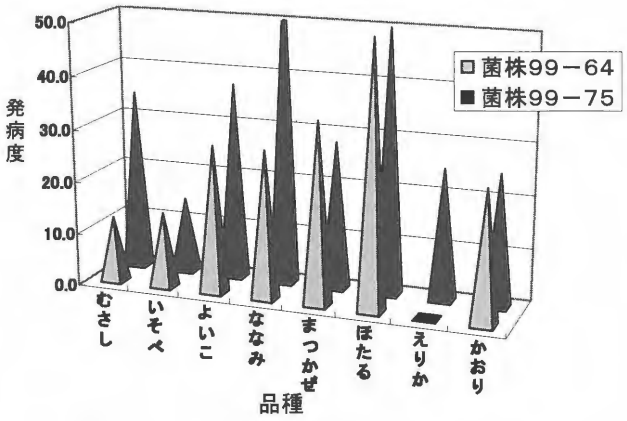

図１　小ぎくの発病程度
（平成14年　フラワーセあおもり）

写真１　品種「かおり」
下位葉の着色

写真２　品種「ほたる」
葉脈間の退緑

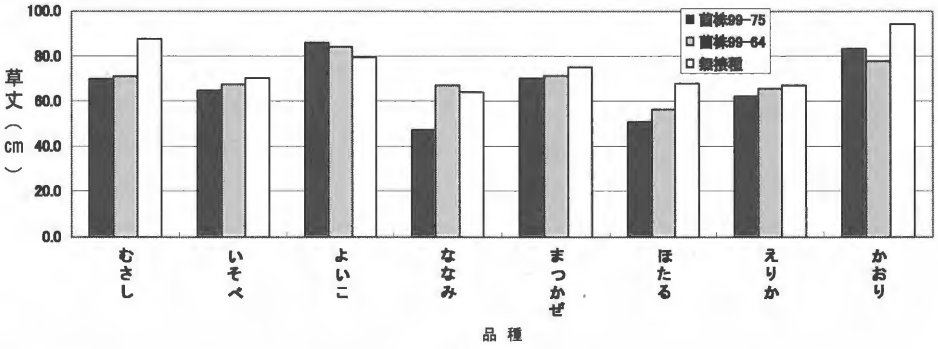

図２　開花期における小ぎく品種の草丈　（平成14年　フラワーセあおもり）

表１　小ぎく品種における発病の特徴　（平成14年　フラワーセあおもり）

品　種（花色）	葉　色	特　　徴
むさし　（白）	淡緑色	下位～中位葉の黄化・枯死
いそべ　（白）	淡緑色	下位葉の黄化・枯死
よいこ　（白）	淡緑色	下位～中位葉の黄化・枯死
ななみ　（黄）	淡緑色	下位～中位葉の黄化・萎凋
まつかぜ（黄）	淡緑色	下位～中位葉の黄化・枯死
ほたる　（黄）	淡緑色	下位葉は健全で中位葉が枯死、葉脈間の退緑
えりか　（赤）	淡緑色	下位葉の黄化
かおり　（赤）	淡緑色	下位葉の一部が淡紅～赤色に着色
神馬　　（白）	淡緑色	下位～中位葉の黄化・枯死